

2021年11月23日(火)

老球の細道641号

トステイン・ロイブルの「オンラインクリニック」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

10月にサヨナラのメールを送って日本からドイツへ帰ったトステイン・ロイブル氏の特集記事が月刊バスケットボール12月号に掲載されていた。長らく日本バスケットボール協会のアンダーカテゴリー育成に関わり、2017年エジプトのカイロで開催されたFIBA・U-19ワールドカップでは世界10位の快挙を成し遂げたが、東京五輪では「3×3」の日本代表ディレクターコーチに任じられた。しかし、ここでもすばらしい実績を残し、日本中に3×3の魅力伝えてくれた。

雑誌のインタビューにおいて、3×3のディレクターコーチに就任して戸惑いはなかったかという質問に対して次のように答えていた。

「『何事も成功するには居心地のよいところで満足してはいけない』というのを信条にしている私にとって、3×3というまったく新しい世界での挑戦の機会が巡ってきました。バスケットボール界における東京2020オリンピックでの成功という使命を帯びたパイオニアになることも意味する大きな挑戦で、大いに意欲をそそられました」

さすがにトステインである。毎日ぬるま湯に浸っている私には痛恨の一言である。そんなトステイン関係の記事(もう一つの記事は東京五輪日本代表シェーファー・アヴィ幸樹選手とトステイン氏のストーリー)を読みながら、ドイツに帰って今頃何をやっているのだろうとコーチ仲間と毎日のように思い出話をしていた。

そんな矢先、埼玉の中学校指導者伊豆倉先生(トステインの通訳、著書の翻訳者)からトステインのオンラインクリニックが開催されるという連絡メールが届いた。それまでパソコンでのオンライン操作がわからなかった私だったが、息子夫婦の協力でなんとかできるようになったので迷わず参加申し込みをした。

このクリニックは「2021 Euro Basketball Academy Online Coaching Clinic」で日本とチェコを繋ぎ11月16日(火)開催された。トステインと伊豆倉先生、そして片岡秀一氏「(株)アップセット」が企画した。その中で判明したのは、トステインが現在チェコのアンダーカテゴリーのスーパーバイザーに就任したことである。クリニック当日はチェコU-16男子の強化合宿中であつた。また、ゲストスピーカーとして東京五輪にも出場したチェコ代表ヘッドコーチ・フランティック・ロン氏も参加する豪華なクリニックとなった。

今回のクリニックのコンテンツは次の通りである。「U-16のキャンプの内容〈何を重視するのか〉」「練習のメニュー」「コーチ・ロンの知識やアイデア。若い選手達への指導ポイント」。なぜチェコの育成がテーマなのか。小さな国であるが、色々なスポーツが世界のトップクラスである。バスケットもしかり。タレントが少ない環境の中でトップレベルを育成するシステムや指導方法は日本にも参考になるというのが理由だという。

次回からクリニックの内容を簡単に紹介したい。世界を股にかける指導者は凄い。